

医学図書館について

著者	三橋 直樹
雑誌名	ぶっくとらっく
巻	23
号	2
ページ	1-1
発行年	2015-03
URL	http://hdl.handle.net/10271/3065

医学図書館について

順天堂大学医学部附属静岡病院
院長 三橋直樹

どのような学問の世界でも、最新の情報を取り入れることが極めて重要であることは言うまでもありません。特に医学の世界は進歩が速く、だれが最初に論文を発表したのか熾烈な競争の世界です。その情報を得るため大きな働きをしてきたのが図書館です。私の病院でも小さいながら図書室があり、最新の雑誌に接することができます。

しかし、最近では書物や雑誌を置くスペースは変わらないものの、書物を読むための机の上に電子書籍を閲覧するパソコンが並び、以前とは全く風景が異なっています。最近の医学部の図書館はさらに進んで書物の数は最小限にしてずらりとパソコンが並ぶというものが多くなっています。また以前は図書館というと物音ひとつしないという雰囲気でありましたが、これも最近では中で議論したり簡単な飲食も許されるというものが多くなっています。さらにバックグラウンドに音楽を流すというものもあるということで、図書館というものが今後どのように変化するのか想像もできない時代になっています。

私が今まで利用した図書館で印象に残っているものを二つ紹介します。

(1) 東京大学医学部図書館

医学部だけの図書館で独立した建物になっています。私がいたころは中に大きな食堂もあり、多くの教員や学生が利用していました。この図書館の最も優れているのは内外の極めて古い雑誌を保存していることでした。

いまからおよそ 25 年前に子宮癌の手術の歴史を講演することになり、この図書館の地下で婦人科の雑誌を探したことがあります。1830 年ごろからの外国の雑誌が保存しており、その中から貴重な論文を探ことができました。ただし全身埃まみれになって閉口したことも覚えています。明治維新が 1867 年であるからそれより前の雑誌を集め保存しているということは大変なことです。

(2) カロリンスカ研究所図書館

私はスウェーデンのカロリンスカ研究所でプロスタグランディンの研究に従事した経験があります。私が行っていたのは今から 35 年前ですが、その当時から図書館には開架の本や雑誌は全く無く、すべての雑誌や書物は受け付けで申し込むと別の階からリフトで運ばれてくるシステムで、当時はとても興味深く思いました。雑誌のコピーも同様のシステムで申し込むようになっていました。しかし、この図書館が有名なのはその奥にある会議室で、その中でだれに次のノーベル医学生理学賞を与えるかが議論されるのでした。